randstad

欲しい人材からの求人応募がこないのは適切なアプローチが出来ていないから?

オフィス派遣求職者の人気求人&独自調査から紐解く

human forward.

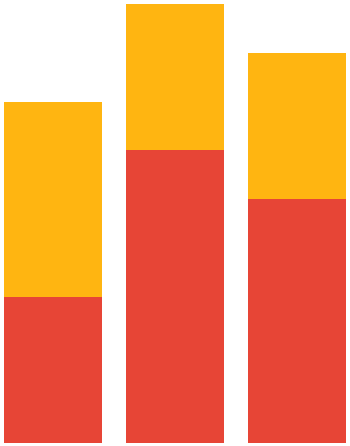
2021年3月

はじめに

「応募はあっても欲しい人材からのエントリーがない…」そんなお悩みを抱えていませんか？
新型コロナウイルスが猛威を振るうなか、求職者が仕事に求めるものは変化してきています。
また、年齢層によっても会社に求めることや大事にしたい価値観は異なります。

そのため、求人を出す前に、求職者が求める職種や職場・条件を知り、
自社の求人内容とすり合わせておく必要があるかもしれません。

では、求職者はどのような職種や条件を仕事に求めているのでしょうか？
ランスタッドは、2020年の応募者データから、年代別にみる応募職種の動向、
勤務先に求めていることなどを独自にまとめました。
2020年の応募者データから、その実態を見ていきましょう。



オフィス派遣求職者の応募職種の変化【年代別】

～20代は未経験OA事務増加、30代以上はより専門性の高い職種へシフト～

まずは、オフィス派遣求職者の応募職種の変化の傾向を年代別に見ていきます。

20代〜30代の
オフィス派遣求職者の応募職種の変化

事務職のなかではOA事務希望者が圧倒的に多い状況は続いています。新型コロナウイルスの感染が拡大した2020年4月からは、20代では未経験者歓迎の案件の多いOA事務、営業事務、経験者を求める案件が多い職種では、経理（経理事務）・英文経理の応募シェアが増加してきています。一方で受付、秘書・セクレタリー、データ入力・キーパンチャーの応募シェアが減少しました。

30代では10月以降OA事務の応募シェアが減少傾向にあり、経験者を求める営業事務や英文事務などのシェアが上がりました。また、企画・営業企画・マーケティング、翻訳・通訳などの専門性の高い業務においては応募が増加している傾向にあります。

これは、企業が新型コロナウイルスの影響でコスト削減を推進した結果、受付・秘書・セクレタリー・データ入力などの採用コストを抑えた一方で、専門性が高く、事務職のなかでも売上への貢献度が数値で目に見えやすい営業事務・英文事務・企画・マーケティングなどの専門性の高い業務を派遣社員に求める流れにあることが考えられます。

20代は未経験者案件への応募が増えた一方で、30代はより専門性の高い職種へシフトしている傾向がみて取れます。

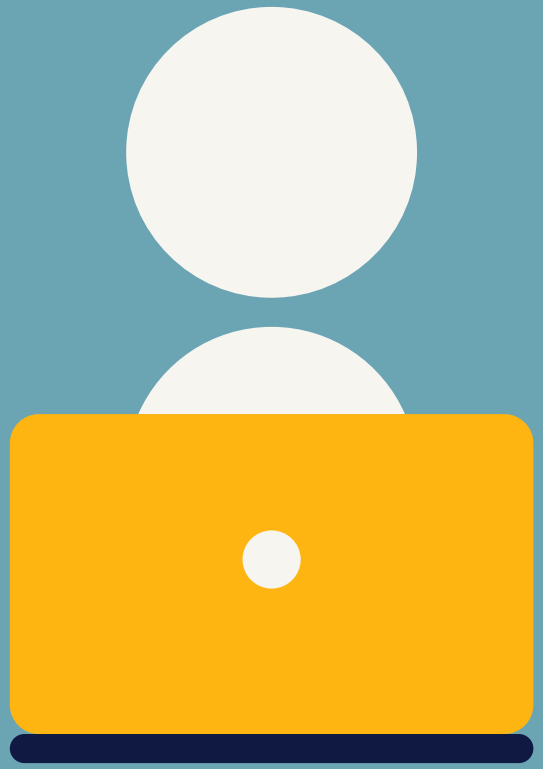
40代〜50代の
オフィス派遣求職者求職者の応募職種の変化

傾向としては、まず年齢別×職種別のデータ（全国）では、40代・50代ともに営業事務の応募シェアが1月から増えています。また業界別×職種別のデータ（全国）では、医療・介護業界の受付業務において、40代・50代ともに応募シェアが増えていました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、昨年秋ごろから医療現場がひっ迫し、掲載案件数が増えたことで応募数もそれに伴い増えたと予測されます。

オフィス派遣求職者の応募業界の変化【コロナ前後】

～IT･web関連の業界シェア増加、流通･サービスは復調傾向～

つぎに、オフィス派遣求職者が応募している業界がどう変化しているのか、
2020年のトレンドの変化を見ていきます。



2020年の20代、30代の応募データを見ると、流通・サービス、IT・web関連、メーカーの順に人気がありました。中でもIT・web関連の応募シェアは6月以降、増加傾向にあります。流通・サービス関連の応募シェアは6月、7月一旦落ち込んだものの8月以降は復調しています。また、医療・介護関連業界は全体のシェアは少ないものの応募が増加しつつあります。一方、マスコミ関連、アパレル・コスメ関連、旅行・ホテル関連の応募シェアは4月以降減少しています。

これは、企業がデジタルトランスフォーメーションを急速に推進する中、IT・web関連業界の案件は継続して求人募集があること、新型コロナ感染拡大後、ネット通販利用者増加の影響により7月以降流通サービス関連業界の募集が増えていることが考えられます。新型コロナ感染拡大の影響を受けやすいアパレル・コスメ関連、旅行・ホテル関連といった消費や娯楽に関する業界は引き続き厳しい状況にあるようです。

一方で年間を通じて変動が少なく、応募者数が安定している業界は住宅・インテリア関連、不動産関連、教育関連となります。

求職者の応募意欲を
高めるものとは？

ランスタッド調べによると、「応募資格」欄で、記載があれば応募しやすい情報として、約60%の人が「未経験者OK」、「必要な資格・スキルの内容」を挙げています。そして、事前にこれらの情報を知ることができた場合、69%の人が応募意向が高くなるとしています。そのため、若年層にアピールするには、仕事内容を見直し未経験者でもできる仕事、もしくは仕事の難易度を調整し、仕事の内容をイメージしやすいように明確に提示するとよいでしょう。

応募を検討するために必要な情報として、給与、仕事内容、勤務地、勤務時間など基本的なことはもちろんですが、求職者は他にどのようなことを知りたいと思っているのでしょうか？どんな情報があれば、応募してみようと思うのでしょうか？

まず求職者が知りたいことは給与についてです。「手当やボーナス支給がある場合の詳細と金額」「月給」「休日出勤・深夜勤務・残業などがあった場合の時給」などが上位に挙げられています。67%の人がこれらの情報を明確に知ることができた場合に応募意向は高まるとしています。基本的なことですが、明確に伝えていくことが信頼性を高め応募を増やすことに繋がるでしょう。

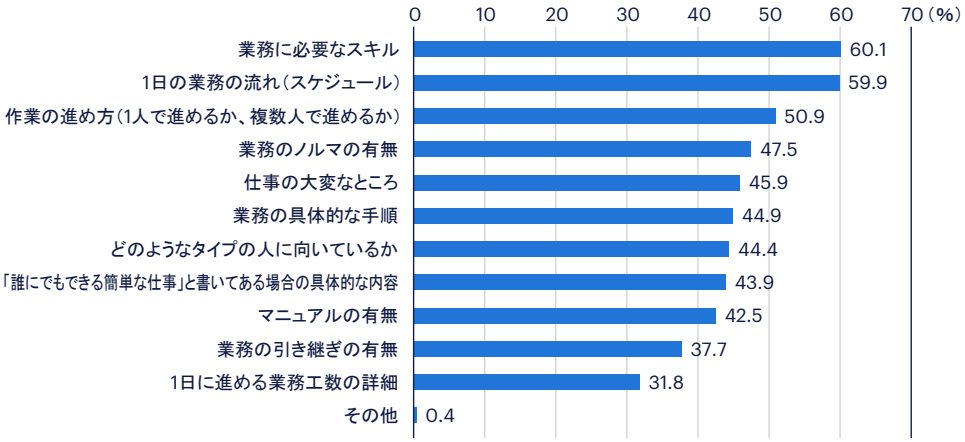
「仕事内容」欄で、記載があれば応募しやすい情報として、「業務に必要なスキル」「1日の業務の流れ（スケジュール）」「作業の進め方（1人で進めるか、複数人で進めるか）」などが上位に挙げられています。69%の人がこれらの情報を明確に知ることができた場合に応募意向は高まるとしています。給与や休日は、変更することは難しいかもしれませんが、仕事内容は記載の工夫をすることで改善することができます。日常業務がイメージできるように分かりやすく伝えていくことが必要でしょう。

求職者側もすべての条件が希望に合致しなかったとしても、職種や業種によっては応募を検討する場合もあります。企業側も募集条件をすべて満たした応募者でなくとも、許容できる、あるいは譲歩できる条件はどれなのかを整理しておくとよいでしょう。

■求職者が知りたい仕事内容

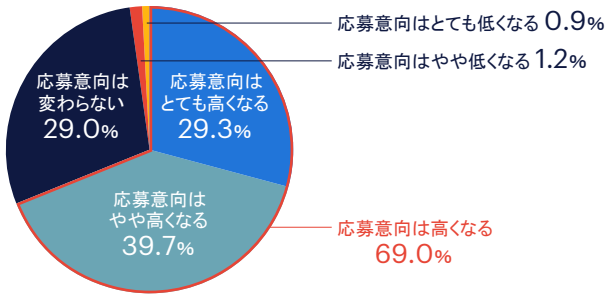
「仕事内容」欄で、記載があれば応募しやすい情報

Q.「仕事内容」欄の表記で、あると応募しやすい情報として
あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答） n=4,082



情報を知ることができた場合の応募意向

Q.お答えいただいた項目について情報を知ることができた場合、
応募意向としてあてはまるものを1つ選択してください。 n=4,082



出典：ディップ総合研究所「派遣社員はここを見ている！仕事探しでゆずれないポイントまとめ
～派遣社員4,000人アンケート調査～」（2020.09.04）

年代別に見る求職者が
勤務先・応募先を選ぶ条件とは？

～若年層ほど「快適な職場環境」を重視～

ここまで、求職者が応募する職種や業界などの変化を見てきました。
新型コロナウイルスの世界的流行という状況下で、求職者の年代によって、
人気の応募職種や業界が変化してきています。
では、結局のところ、求職者は勤務先に何を求め、重要視をしているのでしょうか？
コロナ禍で就職活動をしている求職者が、
「勤務先を選ぶ際に求めるもの」を探ってみました。

年代によって異なる働き手が求めるもの

ランスタッドが2020年9月に10代～60代の男女3129人に行った「新型コロナウイルス発生後働き手が求める意識調査（https://f.hubspotusercontent40.net/hubfs/5856445/globalcontents/randstad_covid_19_worker_report_final.pdf）」によると、26.2%の方がコロナ禍において勤務先を選ぶ際に求めるものに変化があったと答えています。

勤務先に求めるもののトップはすべての年代で「快適な職場環境」でした。「快適な職場環境」とは、職場での人間関係や上司との関係なども含まれます。特に、18才～24才では51.4%、25才～34才では45.2%が「快適な職場環境」を重要視しており、他の年齢層よりも職場環境を重視している割合が高いという結果でした。

18才～24才においては、13.6%が「教育訓練が充実している」、16%が「社会的評価が高い」ことを挙げています。また、29.9%が「興味深い仕事がある」ことを挙げていることが他の年代と比べて特徴的です。未経験者が多いこの層にアピールしたい場合は、教育訓練が整っていることや、仕事を魅力的に伝えることが必要でしょう。

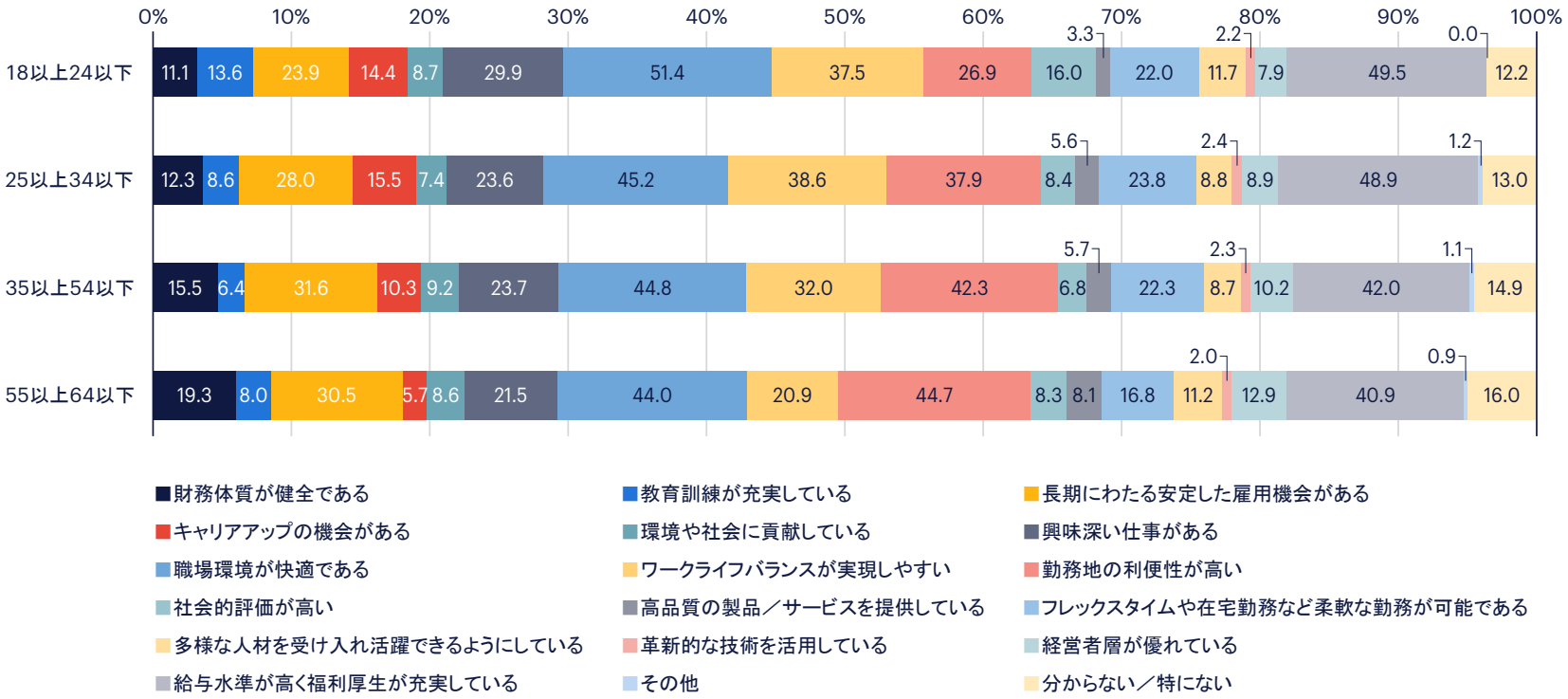
また、25才～34才は「ワークライフバランス」が38.6%、「フレックスタイムや在宅勤務など、柔軟な勤務が可能である」が23.8%と自由な働き方を重視していることが見てとれます。

この層にアピールしたい場合は、フレックス、在宅勤務、ワークライフバランスな柔軟性を強く打ち出していく必要があります。

35才以上になると、職場環境を重視することに加えて「勤務地の利便性が高い」「長期にわたる安定した雇用機会がある」を重要視していることが分かります。この年齢層は「給与水準、福利厚生の充実」より勤務地への利便性が求められている結果となっております。

35才以上の年齢層へアピールしたい場合は、勤務地へのアクセスの良さや安定した雇用機会を訴えていくとよいでしょう。

■勤務先を選ぶ際に働き手が求めるもの（年代別）



出典：ランスタッドジャパン「新型コロナウイルス発生後働き手が求める意識調査」（2020.09）

まとめ

2020年、オフィス派遣の応募者傾向を見てみると、20代は未経験者案件へ、30代以降はより専門性の高い経験者案件に応募シェアがシフトしていることが分かりました。

また、全世代において快適な職場環境が強く求められております。年代別にみると、20代においては教育訓練の充実、30代においては在宅勤務、フレックスなどの自由な働き方、40代においては雇用の安全、勤務地の利便性が求められているという結果でした。

このように、求職者の年齢によって勤務先を選ぶ際に求めるものは異なっています。つまり、獲得したい人材の年齢層をイメージして求職者に向けてアピールすることが重要になります。貴社では、若手層を獲得したいとお考えですか？あるいは中堅層を獲得したいとお考えでしょうか？

ランスタッドが毎年実施する「エンプロイヤーブランド・リサーチ」によると従業員の96%が、「個人的価値観と企業文化の一致は、職場の満足度の重要な要素だと考えている」という結果がでています。会社の業務の一翼を担う派遣雇用の従業員にとっても、「企業文化と従業員自身の価値観の一致」は非常に重要な要素です。

欲しい人材を獲得する近道は、求める人材についてよく理解し、自社の魅力をアピールするとともに、求職者が魅力に感じていることを鑑みて、自社のカルチャーを見直す、エンプロイヤーブランドの向上や改善を検討していくことです。

本記事では、コロナ禍においてランスタッド独自データを元に求職者が応募する人気の業界・職種、勤務先を選ぶ際に求めるものについて紐解きました。求職者のニーズにあわせて求人内容を調整し、より良い人材を獲得していきましょう。

human forward.

randstad

©2021 Randstad Japan